

Mid-America Toxicology Course 参加と Klaassen 教授訪問

5月1日から5月6日まで米国ミズリー州カンザスシティで開催された Mid-America Toxicology Courseに参加してきました。この Course は、The University of Kansas medical center の教授である Dr. Curtis D. Klaassen が毎年独自で行っているものです。参加登録者数は、101人、欠席は7人、日本からの参加者は私のみで、日本人は私以外にマサチューセッツ州から Eisai Inc.の朝倉省二さんが参加されました。参加者のほとんどは米国からで、米国以外では、日本の他、メキシコ、香港、カナダ、デンマーク、スイス、韓国、イギリスから参加がありました。1日目は、参加登録とオリエンテーション及びライトパーティが行われました。このパーティで、様々な方とお話する機会があり、多くの方から日本の震災についてご心配を頂きました。参加者の多くは、The American Board of Toxicology (ABT) が主催する認定トキシコロジスト試験の対策が目的で参加したようですが、何人かは試験対策ではなく毒性学の勉強目的で参加しておられました。米国の ABT が認定するトキシコロジストは Diplomat of the American Board of Toxicology (D.A.B.T.) と呼称されますが、日本では ABT のような組織がなく日本トキシコロジー学会が認定するため、その英語呼称は Diplomat of the Japanese Society of Toxicology (D.J.S.T.) となります。しかしながら、その略称を D.J.B.T.と間違える方が多くおられました。D.J.S.T.であると訂正すると、日本には認定する Board がないという指摘や、Society という言葉では小さな集団内での認定トキシコロジストというイメージがあるといったご意見を頂きました。今後、日本もトキシコロジストを認定するための第三者評価組織として The Japanese Board of Toxicology を設立するべきか、それとも日本トキシコロジー学会が継続してトキシコロジストの認定を行っていくべきなのか検討が必要ではないかと感じました。

2日目からセミナーが開始されました。2日目は毒性学の基礎、吸収・分布・代謝・排泄、皮膚毒性、生殖・発生毒性、3日目は発癌性、遺伝毒性、神経毒性、毒性発現メカニズム、4日目は血液毒性、金属、肝毒性、腎毒性、臨床毒性、5日目は呼吸器毒性、農薬、免疫毒性、溶媒、6日目は動物毒、植物毒、カビ毒についての内容でした。セミナーは朝8時から始まり、2~4日目は17時30分まで、5日目は18時30分まで、6日目は10時まで行われました。セミナーでは、Klaassen 教授の他、11の方が講義を担当しました。講義は各担当講師が作成したオリジナルテキストを使って進められましたが、その内容は、毒性学のバイブルとも言われる Casarett & Doull's toxicology. The basic science of poisons (McGraw-Hill, New York) が基になっていたと思われます。Klaassen 教授の講義は、話がゆっくりでテキストに沿った内容でしたので理解し易かったのですが、生殖毒性、免疫毒性、神経毒性、血液毒性の講義を担当された講師の方々は、内容が多いため話が速く、またテキストに沿っていない話もあり、ネイティブの参加者達ですら速くて理解しにくいことを述べておられました。セミナー終了後、Klaassen 教授から ABT の試験の受験予定者に対しアドバイスがあり、試験の対策として今回のセミナーのオリジナルテキストの復習と Casarett & Doull's toxicology. The basic science of poisons を使った勉強を勧められました。Casarett & Doull's toxicology. The basic science of poisons の要点をまとめた Casarett & Doull's essentials of toxicology (McGraw-Hill, New York) という書籍が出版されておりますが、この書籍だけでの勉強では試験対策として不十分とのことでした。また、市販の Computerized toxicology exam という商品名の CD-ROM (MutaBase Software, Durham, North Carolina) も試験対策に役立つとのことでした。

セミナー事前に、昭和大学名誉教授吉田武美先生を通じて Klaassen 教授とコンタクトをとり、セミナー終了後に Klaassen 教授の研究室を訪問したい旨をお伝えしておりました。

希望がかない、6日目のセミナー修了後、セミナー参加者の中で私一人だけが **Klaassen** 教授の研究室を訪問させていただくことになりました。 **Klaassen** 教授の運転でセミナー会場から約 15 分、カンザス州カンザスシティ（カンザスシティはミズリー州とカンザス州にまたがる都市です）にある **The University of Kansas medical center** に到着しました。建物は 4 階建てで、4 階が **Pharmacology, Toxicology & Therapeutics** のフロアとなっており、このフロアでは職員、学生、ポスドクの方々総勢 116 人が働いているとお話でした。このフロアの一角に **Klaassen** 教授の実験室、機器室の他、 **Klaassen** 教授や他の職員方々のオフィスがありました。 **Klaassen** 教授のオフィスには数多くの賞が飾られており、 **Klaassen** 教授が毒性学の分野において改めて偉大な方であることを実感しました。施設の見学の後、このフロアで働く職員やポスドクの方々と毒性学領域の研究に関する話や様々な話題について話をさせて頂きました。また、同 **center** の合同セミナーにも参加させて頂きました。研究室訪問の後、予定になかったのですが、 **Klaassen** 教授の自宅にも招待されました。 **Klaassen** 教授の自宅はゴルフコースに隣接しており、とても閑静な場所にありました。自宅の一室には自慢の 1950 年代の赤いコルベツトが置いてありました（ **Klaassen** 教授はかなり車がお好きのようです）。この日は私の誕生日ということもありまして（日本では吉田先生の教授退任祝賀パーティの日でした）、 **Klaassen** 教授と教授の奥様との 3 人での外食に招待され、さらには、近隣の高校で催されたダンス&コメディショー（ **Klaassen** 教授の孫息子がショーのメンバーの一人として出演）にも招待して頂き楽しい一時を過ごすことができました。当初、研究所訪問は短い時間になることを想定していたのですが、 **Klaassen** 教授にはお忙しい中約 12 時間に及ぶ歓待を受けました。

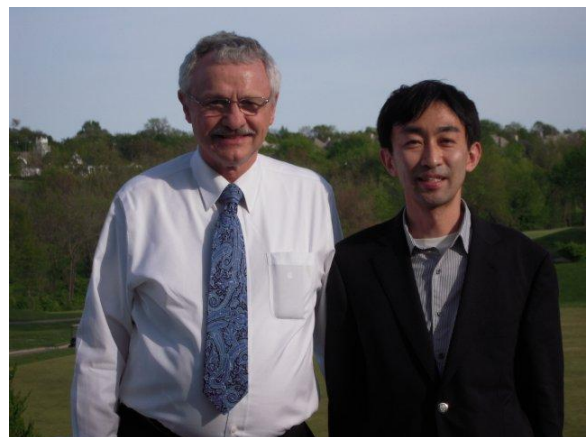
米国滞在中、セミナーのない日に、カンザスシティロイヤルズのホームグラウンドである **Kauffman Stadium** まで大リーグ野球の観戦に行きました。たまたま松井秀喜選手が所属するオークランドアスレチックスとの試合が組まれており、試合前に松井選手を捉まえてサインをもらうことができました。さらに、幸運にも試合中にファウルボールをキャッチすることができ、野球観戦好きの私にとっては最高の大リーグ野球観戦でした。

最後に、今回お忙しい中 **Klaassen** 教授に連絡をとり研究室訪問を打診してくださいました吉田先生、米国滞在中に大変お世話になりました **Klaassen** 教授、同教授の奥様、そして **The University of Kansas medical center** の **Pharmacology, Toxicology & Therapeutics** で働く方々に深くお礼を申し上げます。

株式会社 資生堂 品質評価センター
森 眞輝



Course 会場の様子



Klaassen 宅のバルコニーにて